平成 28 年度動物由来感染症予防体制整備事業報告書（概要版）

1　事業の目的

岐阜県内で飼養されているペット（イヌ・ネコ）の病原体保有状況を調査分析し、動物由来感染症に関する正しい知識を普及することにより、動物由来感染症の予防及び発生時の適切かつ迅速な対応を促進する。

2　調査対象感染症

調査対象感染症	感染症の症状・特徴等	調査対象に選んだ理由
トキソプラズマ症	トキソプラズマのシストを含む食肉を加熱不十分で喫食したり、ネコの糞便に含まれるオーシストを経口的に摂取することで感染する。免疫不全者には重篤な症状を引き起こし、また、妊娠中の女性が感染すると、胎児に重篤な症状をもたらす先天性トキソプラズマ症の原因となる。	過去には食肉衛生検査所において家畜、家禽の調査が行われているが、イヌ・ネコについては調査が行われていないため。
重症熱性血小板減少症候群（SFTS）	ウイルスを保有しているマダニに刺咬されることで感染する。主な症状は、発熱、消化器症状（食欲低下、嘔吐、下痢）等が認められ、重症化すると死亡することがある。	県内で患者は発生していないが、マダニからウイルス遺伝子が、狩猟犬の血清から抗体が検出されているため。人に身近なペットのイヌ・ネコについてはこれまで調査されていないため。
日本紅斑熱	病原体を保有するマダニに刺咬されることで感染する。主な症状は、頭痛、発熱、倦怠感で、適切な治療により回復するが、治療が遅れると重症化することがある。	県内では現在までに患者の発生は報告されていないが、近県の三重県では毎年 30 件前後の報告があるため。 県内で飼育されているイヌ・ネコについてこれまで調査されていないため。
サルモネラ	サルモネラ属菌は、ほ乳類、鳥類、は虫類等広範な動物が保菌している。人への感染は、汚染された食品や水などによる食中毒の他、ペットとして飼育されているは虫類からの感染も多く報告されている。イヌ、ネコも保菌している可能性がある。	サルモネラ属菌は、ほ乳類、鳥類、は虫類等広範囲の動物が保菌している。 人の食中毒原因菌のひとつであり、県内で飼育されているイヌ・ネコの保菌状況はこれまで調査されていないため。
カンピロバクター	カンピロバクター属菌は、広くほ乳類、鳥類などの動物が保菌している。人への感染は、主に食中毒起因菌（C. jejuni、C. coli）に汚染された食品や水などを摂取することによるが、少量でも感染が成立するため、ペットとして飼育されている動物（イヌ、ネコ）からの感染の危険性が指摘されている。	カンピロバクター属菌は、ほ乳類、鳥類などの動物が保菌している。 人の食中毒原因菌のひとつであり、県内で飼育されているイヌ・ネコの保菌状況はこれまで調査されていないため。

3　結果

調査対象感染症	対象動物	検査件数	材料	検査方法	検査結果		備考
					陽性（陽性率）	陰性	
トキソプラズマ症	イヌ	42	血清	抗体保有の確認	2(4.8%)	40	
	ネコ	35			4(11.4%)	31	
SFTS	イヌ	42	血清	抗体保有の確認	0	42	
	ネコ	35			0	35	
	イヌ	26	ダニ	ＳＦＴＳウイルス遺伝子の検出（PCR）	0	26	
	ネコ	7			0	7	
日本紅斑熱	イヌ	26	ダニ	日本紅斑熱リケッチア遺伝子の検出（PCR）	0	26	
	ネコ	7			0	7	
サルモネラ	イヌ	16	糞便	培養検査	0	16	
	ネコ	64	糞便	培養検査	0	46	
カンピロバクター	イヌ	16	糞便	培養検査	0	16	
	ネコ	64	糞便	培養検査	0	46	